

鹿兒嶋縣  
明治太平記

天の時地の理ふまげ地の理の  
人の和まふまげと古人の金言宣  
あまうかひよく氣を得て勇  
氣日頃一倍火粉ちりりて  
戦つて又官軍をたふさうと  
少ひそのふかき言語を結  
上死人の血ふくはれて泉  
とるるの鯨波金油もふさ  
とるる夫より若く小山古も  
をるる斗の大砲も大焼あも  
鯨波声西海に起り西郷に  
奔り九段と席巻せんとして先  
熊本に迫る由の電報達一は  
征討總督有栖川宮陸軍率  
ひ神戸港に出帆あり熊本  
こゝに進みあふれ西郷隆  
盛の其勢万有四千先陣徳原  
國幹の熊城進く攻寄て花  
散して激戦す茲又官船龍旗  
丸の肥後近海に固りて陸軍  
応援す折々肥前天草の沖  
ちて賊船と出合ひ激戦戦つ  
又敵船三隻と奪ひ三十余名  
生捕たりと云々

第二大区八小區  
高津町九番丁土番地  
編輯 川上作次郎  
出版人

